

「防疫バッグ」の特徴

● 防疫バッグの構成

①角や蹄の保護カバーと②防疫措置の現場で熱溶着による密封が可能な内袋と③酢酸ビニルのシートを高周波ウエルダーで縫い目無く接合した頑強な外袋で構成しており、かさばらずに備蓄可能。

● 収容方法

組み立てが容易な金属フレームに防疫バッグを固定し、牛など大型動物(耐荷重1トン)をスムーズに収容可能、吊上げて輸送車両に積載し輸送。

● 密閉性

【ウイルス】大きさ20～30ナノメートルで超小型の口蹄疫ウイルスと同等の大きさのウイルスを用いて、ウイルスが防疫バッグを通過しないことを確認済み（リアルタイムPCR装置で検査）。

【処分家畜から発生するガス】内袋に接合する中空糸フィルターは、ウイルスを通過させず、処分家畜から発生するガスを透過。

● 処理

焼却可能な素材で構成しているため、収容状態のまま焼却処理が可能で、焼却時にダイオキシンなどの有害物質が発生しないことを確認済み。

● マニュアル

的確な封じ込め作業のために、防疫バッグの取扱について詳細な冊子版とDVD版のマニュアルを作成。

● 特許出願

小さな手作りの試作品で、防疫バッグのコンセプトを農林水産省に提案、太陽工業株式会社、京都産業大学と連携して、農林水産省の競争的研究資金の採択を受け、平成24・25年度に10回の現地検討会で自由闊達な議論を重ねて実現。研究成果として、4月21日に共同で特許出願済み。